

# いたがく通信



発行：平成25年6月吉日 第109号

板倉学園 高田スクール 527-3533

板倉スクール 78-2458

本格的な梅雨が到来しました。人間には鬱陶しい季節ですが、動植物には恵みの雨となっております。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

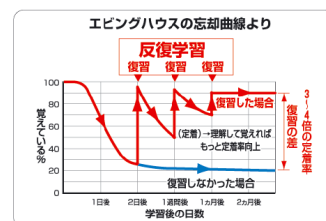
今号では、5年後を目処に入試制度の変更が議論されている、大学入試について取り上げます。特に中学生の皆さんが受験する頃には大変革が起きますので、今から注目しておきましょう。

## 定期試験を終えて…

中学生の皆さんは6月21日（金）に全ての学校で1学期定期試験が終わりました。高校生の皆さんは6月28日（金）から7月1週目が定期考査期間ですね。中学生・高校生とも学校で出される課題は多く、テスト勉強が大変です。

定期試験は中学生・高校生で取り組む姿勢を変える必要があります。中学生は全教科、全力で取り組まなければなりません。それは自分の可能性を見極めるためです。逆に高校生はいかに効率よく、必要な教科だけに絞って取り組むかを考えます。大学に推薦で入学する、就職で学校からお墨付きを貰う、という人は全教科で優秀な成績を取らなければなりません。しかしセンター試験を利用して大学受験をする人は、使わない科目を一生懸命やるよりは、必要な科目に全力を注いだ方が良いでしょう。

いずれにせよ、テスト前だけ努力しても効果は上がりません。以前「エビングハウスの忘却曲線」を紹介しました。中学生・高校生とも「その日習ったことはその日のうちに復習」が勉強の鉄則です。中学生なら「習った日に習った範囲のワークをやる」、高校生なら「自分に必要な課題を毎日こなす」ということです。部活が忙しいのは誰でも同じです。そこで差をつけるには、人よりちょっとだけ努力する必要があります。



※ヘルマン・エビングハウス(1850~1909-独心学者)忘却学習を打ち出す。

## 今後の塾スケジュール

7月6日（日）～ 中3生新潟県統一模試

会場：高田スクール

※板倉スクールの生徒さんも高田スクールへお越し下さい。

送迎の都合がつかない生徒さんはお申し出下さい。

持ち物：筆記用具、定規、コンパス、昼食

服装：学生服（夏服で構いません）

※詳しくは「新潟県統一模試のお知らせ」文書をご覧ください。



## 大学入試が変わる！

前号では「自分に向いている学問は何？」を取り上げました。「おーいお茶」ひとつを取り上げても、皆さん注目する所が違っていましたね。塾の運営では同じ方向を向いている塾長と私（横尾）でも、おーいお茶については違った見方をしていました。



興味のある学部学科が見つければ、次は「**どうしたらその学部学科に入れるのか**」を考える必要があります。

大学に入るには大きく分けて3つの方法があります。

1つは**推薦・AO入試**です。これらは基本的に学科試験よりも高校での成績や人物を評価して合否を決めるものです。つまり**高校3年間の生活が重要**になります。

次は**一般試験**です。高校入試と同様、**記述式の試験**を解いて点数を決めるものです。一般試験だけの受験というのは主に私立大学で採用されています。国立大学は後述のセンター試験と抱き合わせで利用しています。



最後は**センター試験**。毎年1月20日前後に行われている、全国共通のマークシート方式の試験です。受験者数は年々増加し、平成25年度で573,344人。新潟県だけでも約11,000人が受験しています。この試験は**マークシート（選択肢から解答を選ぶ）方式**で、簡単に言えば大学入試の一次試験です。受験生のほとんどはセンター試験を利用しますので、高校でも対策が多くなされています。当塾の高校部も、この試験で大学に合格できる力をつけることを一番の

目的としています。

さてこのセンター試験ですが、今、文部科学省でこのあり方について見直しの議論がなされています。以下、少し長いですが最近の話題です。

下村博文文部科学相は6日、政府の教育再生実行会議（座長・鎌田薫早稲田大総長）の会合後、高校在学中に複数回受けられる「到達度テスト」（仮称）を創設し5年後をメドに大学入試センター試験を廃止することについて「制度設計の方向性は間違っていない」と述べた。そのうえで実行会議の提言を受けて詳細を詰めるとした。

大学入試を巡っては、年1回の共通テストによる合否判定を重視しすぎるとの指摘がある。学力を問わないAO（アドミッション・オフィス）入試や推薦入試も広がり、学習時間が短く、学ぶ意欲の低い大学生の増加が懸念されている。

文科省はこうした問題点を解決するため、センター試験に代わるものとして到達度テストを創設するとともに、この成績をAO入試や推薦入試の合否判定の条件に盛り込むことを各大学に奨励する考えだ。これに応じた大学には金銭的な支援を行うことも検討する。

実行会議は同日、大学入試改革に向けた議論をスタートさせた。安倍晋三首相は冒頭で「大学入試に過度にエネルギーを集中せざるを得ないことがわが国の教育の問題だ」と述べた。委員からは「一発勝負の選抜は良くない」「複数回受験できる入試にするには英知を集めて共通テストをつくるべきだ」などの意見が相次いだ。

下村文科相は会合後、「入学試験が高校の授業の目的となっている」と指摘。到達度テストとセンター試験の関係に関し「高校生への二重負担は避けるべきだ」との見解を示した。

大学入試の改革は教育改革の本丸である。なぜなら大学入試を変えることは高校以下の教育の中身を見直すことに直結し、同時に、大学の教育・研究機能の向上にもつながるからだ。教育全体への波及効果はきわめて大きい。

そうした認識から私たちは、1979年の共通1次試験導入以降続く「一発勝負型」入試体制を改めるべきだと主張してきた。受験生が複数回挑戦できるテストを新たに設け、そのうえで各大学が工夫を凝らした選抜を行うのが望ましいという提案である。

こんど文部科学省などが検討を始めた「到達度テスト」は、これと同じ方向性を持つものだ。硬直した入試システムを打ち破り、世界で活躍できる人材育成の土台づくりとなるよう期待したい。入試制度の歴史は試行錯誤の連続である。共通1次が始まったのも、それまでの個別入試の弊害が大きかったからだ。

その理念は大学入試センター試験に受け継がれたが、ねらいとは逆に1点刻みで受験生をふるい落とす手段となっている。しかも年に1回しか受験機会がないマンモス試験だから、当日に向けて過度の緊張を強いることになる。

別のほころびも目立つ。センター試験は一部科目だけの利用もできるため多くの大学に広がったが、十分な学力を問わない「お手軽入試」に使われることもある。もっと高校卒業レベルの学力をきちんと問うようにしないと、大学の教育水準低下は深刻化しよう。

センター試験の廃止と「到達度テスト」新設は、こうした問題を解決するカギになり得る。しかしそのためには、よほど入念な制度設計をしなければならない。

テストを年に何回、どこで、どんな中身と形式で実施するか。高校在学中のどの時期から受験可能か。すべての大学志願者が受けるのか。大学受験の資格試験的な要素をどこまで持たせるか。問題作成や運営は入試センターが担うのか。課題は山のようにある。

加えて、この入試改革は各大学の2次試験の抜本的見直しとセットで考えなければならない。「到達度テスト」で基礎学力を見極めるとともに、私立大も含めて各大学が手間ひまかけた試験を行ってこそ、多様な才能を持つ人材を選び抜くことができるはずだ。教育界全体が問題意識をもって今後の動きに対応し、構想実現への道を開いてもらいたい。



要約すれば「一発勝負のセンター試験を重視しすぎるのは危険だ」「お手軽入試になってしまい、大学の教育水準が下がる」ということです。

大学の世界ランキングでは、日本を代表する**東京大学でも27位**です。次に出てくるのが**57位の京都大学**。世界ランク100位以内にはこの2校だけしか入っていません。私立の双頭である早稲田・慶応は351～400位圏内です。

本当に5年後からこの制度が始まるとすれば、**現中1生から入試制度が大きく変わる**ことになります。昨年度の学習指導要領改訂で「ゆとり教育」が終わりました。次の改訂では一層「**本当の学力**」が試されることになるかもしれません。

勉強はこれからますます厳しくなっていくことが予想されますが、国は教育水準を上げて国力を上げようとしています。不景気といわれる日本を変え、中国など発展途上国の台頭に負けないようにするにはキミたち若者の力が必要なのです。より柔軟に、より粘り強く考える力を伸ばすため、イタガクはキミたちの頑張りを応援します。

